

# 11/18 記者会見

## 1. 内容（資料説明）

### ①ふるさと納税寄附額 2.5 億円に到達

ふるさと納税の寄附額、昨年度の実績は約 5800 万円だった。それに対し、今年度の目標を当初 1.5 億円としていたが、今年 10 月末の現在で、昨年度同時期と比較して 12 倍の 2.5 億円に達した。

その要因としては、7 月からフューチャーリンク株式会社に業務委託を行い、その知見と経験から、広告や SEO 対策、返礼品ページの改修、商品改善等を、市と連携して取り組んだ結果が寄附額の増加につながったのではないかと考えている。

主要な返礼品は米で、今年度 10 月末までで 97%を占めている。米不足もあり、需要の高まりも相乗効果としてあったと推測している。昨年度は全体の 60%が米だったということからも、今年度米が伸びていることを表している。

11 月 20 日の臨時議会で、今年度の寄附額を 5 億円と見込み、当初予算で計上していた 1.5 億円を差し引き、3.5 億円を歳入の補正、その歳入に応じて返礼品やポータルサイト使用料などとして、1 億 6600 万を歳出の補正として計上する。

### ②ゴルゴ松本氏による人権啓発講演会 「命の授業」を開催

毎年開催している人権啓発講演会について、今年は「人文字ギャグ」でおなじみのゴルゴ松本さんを講師に迎え、「命の授業」と題した講演会を予定している。

ゴルゴさんは、全国各地の少年院を中心に漢字の知識を通じて人生について語るボランティア活動を行っており、笑いを交えながら魂のこもった熱い授業をされ好評を得ている。

開催日が来年 1 月 18 日、会場が文化ホールで、リアルとライブの両方を予定している。

整理券は 11 月 17 日（日）に配布を開始しており、その 1 日だけで 486 枚を配布したと聞いている。

また今回は、新潟県長岡地域振興局の支援をいただきながらの開催となる。

### ③見附の冬を彩るイルミネーション

見附の冬の夜を彩るイルミネーションについて二つ紹介。

一つめは街路樹イルミネーション 2024、毎年市役所前の通りで行っており、今年で 19 年目になる。点灯式を 11 月 24 日（日）に行うのでぜひ取材をお願いしたい。

二つめは、地域コミュニティが新しい取り組みとして「あたらよ」という名前を付けて、連携してイルミネーションを行うというもの。「あたらよ」というネーミングは、明けてしまうのが惜しい夜を意味する万葉集の一句で使われた言葉から来ており、地域を明るくしていこうといった取

り組みとなっている。表にあるとおり、葛巻、上北谷、北谷南部、第二小、庄川平が連携し行うもので、実施期間等は記載のとおり予定している。

## 2. 質疑応答

質：新潟日報

- ・ふるさと納税について、7月からフューチャーリンクネットワーク株式会社に委託しているとのことだが、寄付額が伸び始めたのも委託してからなのか。

答：市長

- ・委託する前においてもさまざまな取り組みを行っており少しずつ伸びていたが、急な伸びを示したのは、7月の委託からと言える。委託前に行っていた、返礼品を増やすなどといった取り組みについても効果があったと思うが、SEO 対策などにより急激に伸びたと分析している。

質：読売新聞

- ・ふるさと納税について、米の割合が 97%とのことだが、逆に言うと米以外は昨年度よりも落ちているということなのか。

答：市長

- ・昨年度 1 年間の返礼品の第 2 位がニット・織物、第 3 位がおせち料理となっている。いずれもシーズンがこれからという品物である。米についてはシーズン真っ盛りということで、まずは米を中心に伸ばしたと思っている。

答：地域経済課長

- ・米以外については、現在昨年並みである。

質：読売新聞

- ・ゴルゴさんの講演会について、昨日までで 486 枚出ているということは事前報道が要らないと思うがどうか。

答：市長

- ・報道がなくとも配布し終わる可能性はあると思うが、ぜひ報道してもらいたいと思う。

答：市民税務課長

- ・今日 10 時現在で現在 521 枚出ている。もう少し残っている。

質：読売新聞

- ・イルミネーションについて、おすすめの撮影スポットはあるか。

答：市長

- ・街路樹イルミネーションということでは、市役所前が一番良いと思う。

答：まちづくり課長

- ・コミュニティについては、ここというのは今お伝え出来ないが、取材のしやすさから言えば、元氣葛巻イルミネーションは街路樹イルミネーションから位置的にも近いので良いと思う。また上北谷や第 2 小区、北谷南部は郊外の地域になり、地域由来の暖かいイルミネーションという印象を感じられると思う。

答：市長

- ・他にもおすすめの場所があれば改めてお伝えしたいと思う。

質：見附新聞

- ・ふるさと納税について、米が97%ということで、計算すると米以外が約760万円で昨年並みということだが、今年1月にSV関連で全体の報告があった中で、地域力創造株式会社のSEO対策や広告について、一般的なネット通販のノウハウを持っていたが、ふるさと納税特有のノウハウが不足していたため効果が発揮できなかったと聞いている。いわゆる仲介業者を変えたことで何が変わってこれだけ大幅な増につながったのかということ、改めて聞きたい。

答：市長

- ・ふるさと納税に関連するサイトは数多くあるが、その中で見せ方が重要で、検索の上位に載ることが多くの方からポチッと押しただけのことにつながるということが一番大きいと思う。このことを教えてくれたとともに実行できたということが、フューチャーリンクの強みなのだろうと考える。これまでもできる範囲での取り組みを行ってきたが、その知識がより豊富で、かつそれを実行できる技術と経験を持っていることがこのような結果につながっていると思っている。

質：見附新聞

- ・新しい返礼品の掘り起こしなどは地域活性化起業人の取り組みで続けていると思うが、今年度の新たなアイテム数や特徴について何かあるか。

答：市長

- ・今年度27品の新規返礼品の受付を開始した。ニット製品ではチェックスカート、kimataさんの食料品では3品目、米については売り方などでの新商品、ほっとぴあの入浴券やネックレスなどの工芸品も3品目追加している。このような返礼品追加の取り組みも寄附額の増加につながったと考えている。

質：新潟日報

- ・イルミネーションは毎年行っていて、今年は「あたらよ」という新しい形ということで良いか。

答：市長

- ・各地域とも毎年やっていたが、今年はしっかり連携してPRしていこうというもの。PRして皆さんに来てもらうことが、地域の元気や盛り上がりにつながっていくと考え、新しい名前を付けて取り組むことにした。

質：読売新聞

- ・今年イングリッシュガーデンがイギリスの賞を受けたが、最近ふるさと納税で体験型の返礼品のようなものも増えているが、見附市ではそのような返礼品はあるか。

答：市長

- ・現在はない。体験型という手段もあると思うが、まずは寄附額を伸ばすためには見せ方が最も効果があるだろうと判断し最優先に取り組んでいる。今後は、市をPRするという意味においても、どのような返礼品を追加するかということも考えていく必要があると思う。

質：読売新聞

- ・受賞したことでイングリッシュガーデンの来場者は増加したか。

答：建設課長

- ・具体的な数字は持っていないが、昨年よりは確実に増加している。特に受賞後の5月6日は、1日5000人を超える方が来場された。受賞の効果を強く感じているところ。

答：市長

- ・イングリッシュガーデンに来場された方には、入場料は無料だが、寄付をしていただいている。昨年度はもう少しで1000万円に到達するところだったが、今年度は1000万に到達した。このことはブリティッシュルームの賞をもらったことを含めてその効果があったと思う。

質：新潟日報

- ・以前、イングリッシュガーデンに外国語の音声ガイダンスを導入したと発表があったが利用状況を問う。

答：建設課長

- ・正式に何かご意見をいただいているというわけではないが、ガーデンの職員が来場者から聞いている中では、非常にわかりやすいと好評をいただいている。

質：新潟日報

- ・市長は来月で任期が残り1年となるが自身の評価を問う。

答：市長

- ・まもなく就任してから3年を迎える。大事にしてきたことは、市民の皆さんの声を聞くことと、それを市政に活かしていくということ。その観点からもふれあい懇談会を月1回のペースで行い、声を聞くだけでなく、市の取り組みをしっかりと話しし、市がどういう考えでどういう取り組みを行っているかがよくわかったという声も聞いているので双方向で良かったと思っている。

加えて、7つの柱で取り組みを行っているが、特に若い人たちに見附に戻ってきてもらい、住んでもらうというところに力を入れ、子育て環境の充実を重視しながら取り組みを進めているところである。まだまだこれからも取り組んでいかなければならないとは思っているが、着実に少しずつではあるけれども、できることから取り組むことができているのかなと思っています。

来年度、総合計画の見直しを行う。その中でもしっかりと今後の方向性を出していければと考えている。

質：見附新聞

- ・財政的な問題について、すぐに危機的な状況ではないが決して将来的に楽観視できないという見解を示されたが、今年4月の中長期財政計画でも、議会でも疑問に思われる声があった。最終処分場の問題は以前からわかっていたことであるし、見附駅の改修、耳取遺跡、学校の問題などにおいても、財政的にも負担の大きなものが出えてくる可能性があるが、これらを踏まえて、今現在の財政に対する市長の見解を改めて問う。

答：市長

- ・財政状況は危機的な状況ではないということは変わっていない。ただし楽観視もできず、しっかりと歳入確保と歳出の見直し両面から取り組んでいかなければならない状況についても変わっていないと考える。歳入の増加で言えば、今日報告したふるさと納税に力を入れており、加えて企業誘致も含めて地域経済の活性化に取り組んでいかなければならないと思っている。

歳出の見直しについても、これまでやってきたものを見直すという観点で言えば、敬老会の費用の使い方や健幸ポイントの換算率などを見直し、少々市民の皆さんに痛みを伴うものもあるかと思うがやれるところからやっているという状況。来年度の予算編成においても、厳しく目標を掲げながら検討しているところで、ご指摘のあった事業について、あるいは今の既存の公共施設の施設運営等々についてのあり方を、財政のことも踏まえながら方向性を示していきたいと考えている。

質：見附新聞

- ・見附駅については、いくつかの案を示してからだいぶ時間が経っているが、方向性はいつ頃示されるのか。

答：市長

- ・見附駅については、一度優先順位を示してから時間が経っていることを認識している。現在、既存施設の安全性のチェックや JR との協議等々で時間が延びているという状況。方向性をいつ示せるのかということをごここで申し上げることができないが、整理できた時点でしっかりと示させてもらおう。

質：見附新聞

- ・耳取遺跡についてはどうか。

答：市長

- ・耳取遺跡については、年 1 回ペースで専門の学識有識者を交えて検討委員会を行い、その方向性について議論しているところ。一度案が示された状況ではあるが、その案自体の見直さなければならぬかも知れ、現段階ではこれ以上のことは申し上げられないが、今後の計画のあり方を委員会の中で議論していくことになると思う。ただ 1 つ言えることは、遺跡を保存し、活用していくという方向性については変わることはないと考えている。

質：見附新聞

- ・来年度の予算編成に向けては、一般財源ベースで 4.5% くらいの削減目標を掲げていると聞いたが。

答：市長

- ・目標は表向きのものではない。予算編成にあたり、内部的に各課に削減の意識を持ってもらってある程度の数字を示しながら庁内で議論している状況。